

環境学委員会環境思想・環境教育分科会  
環境教育における体験の再検討小委員会(第25期・第2回)

議 事 要 旨

日 時 令和4年9月19日(水)15:00~17:00

会 場 遠隔会議

参加者(敬称略:50音順):井上真理子、太田 和彦、奇二 正彦、  
工藤由貴子、河野 哲也、関 礼子、土方 圭、馬奈木俊介  
\*委員8名中8名の出席により会議は成立した

オブザーバー参加(環境思想・環境教育分科会委員):日置光久、氷見山幸夫

議 題

1. 体験に関する概念整理

各委員より、「体験」に関する概念整理と、現状についての課題についての報告があり、報告内容をもとに質疑応答を行った。論点として、地域を探究する授業の実践における直接体験、身体性や生活力、well-beingの向上、クリエイティビリティへの効果、また、課題として危険から隔離によるサバイバル力の低下、学校教育での体験活動を行う上での課題、オンライン授業と体験などが指摘された。

2. 報告(奇二正彦委員)

奇二委員より、生物調査と環境教育活動を基盤とした「体験に関する報告」として、現代社会における生活体験の減少の課題と、体験とリスク、幼児教育における体験の意義、地域の価値を直接体験することの意義、体験のフェーズ等の報告があった。

記事委員の報告内容をもとに、質疑応答を行った。

3) 今後の活動・次回の予定

シンポジウムの開催を見据えて、各委員の報告をもとに論点を整理することが確認された。次回は、年内開催を予定して、日程調整を行う。次回は、太田委員、土方委員が体験に関する報告を予定する。

配布資料

資料1:「多世代哲学対話とプロジェクト学習による地方創生教育」(河野委員)

以上